

[第 155 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 6年 10月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 6 年 11 月 2 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 藤樹神社社務所(高島市安曇川町上小川69) ☎0740-32-0638
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」 会場がいつもと違います
テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.196～
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2024年10月5日(土)、第154回藤樹人間学塾を開きました。今回は大津から4名(うち初参加1名)を入れて9名の参加でした。

■ テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』(中公バックス日本名著)

■ テキストの見出し

「集義和書」書簡の2 兵乱と武士の心掛け、和歌、蹴鞠(けまり)と武士のたしなみ、武辺の極意は愛敬、生と死 を輪読し、説明しました。

■ 配布資料

(1)「まなざし 473号」、(2)山崎弁栄『大悲のことは』『永遠のいのち』、(3)青山俊董、山川宗玄「一筋の道を歩み、見えてきたもの」、(4)田口佳史「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」(致知)、(5)NHK ころの時代 勝田茅生『ヴィクトール・フランクル』「◎人生の中の出逢い」

■ 今日のポイント

- ・兵乱と武士の心掛け…よい武士(社会人)は、勇気があり、武道、武芸(高い専門能力)の心掛けが深く仁愛の心から世の無事を好むが、いざ事変が起これば身を忘れて大きな働きをする。
- ・和歌・蹴鞠と武士のたしなみ…文武の道(本業)をよく心得て、部下を導き、人民を治め、その余力で月花にも歌もすれば花も実もある好人である。
- ・生と死…生と死、労働と休息は昼と夜のような時の変化である。ただ造物主(大宇宙)がしようとされるままである。

山崎弁栄師は、われらはすべて大宇宙の分身であり、肉体の死とともに心は大宇宙のもとへ帰り、同胞とともに極楽の生となると言われている。

■ フリートークング

- ・「本(もと)と枝葉の本とは本業を頑張ることだと理解した」
- ・「私は先月アメリカへ行った時に、ホームステイ先で藤樹紙芝居「馬方又左衛門」を英語で説明した。意味は通じたと思う。藤樹思想を世界に広めようとする思いでやった」
- ・「音楽は文武の徳を助けるものだという話があった。私は先日、まつうらようこの記念コンサートを企画して300人以上の人に集まっていただき、音楽を皆さんと一緒に楽しんだ」
- ・「人の話を聞いて、自分でも考えるのは楽しい」「熊沢蕃山を学べる場所は他にない」等の意見をいただきました。ありがとうございます。

皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

